

# 統合学習のための補助教材

## —自ら読み、考え、表現する活動を目指して—

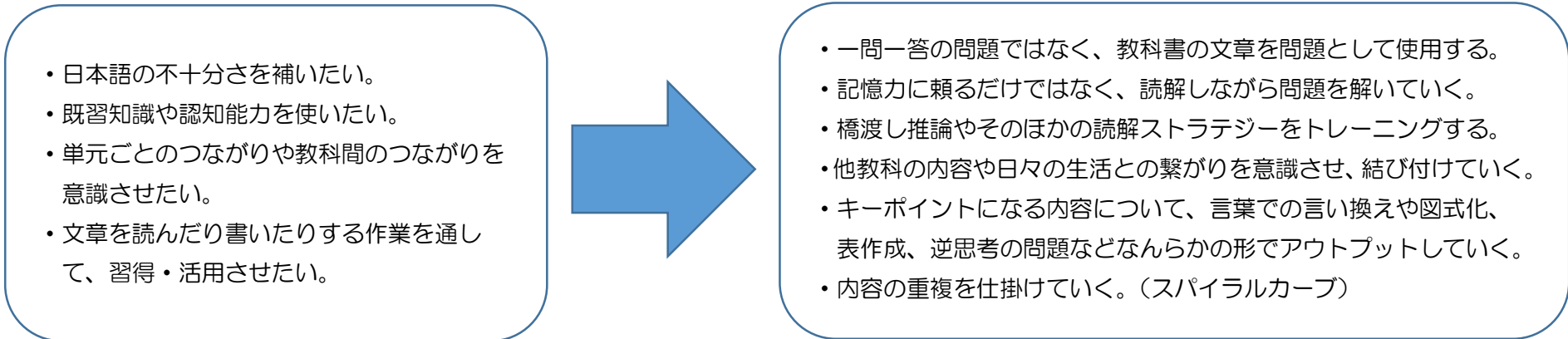
兵庫県立芦屋国際中等教育学校・日本語講師  
丸山多賀子・筒井美貴

### 1. 生徒の状況

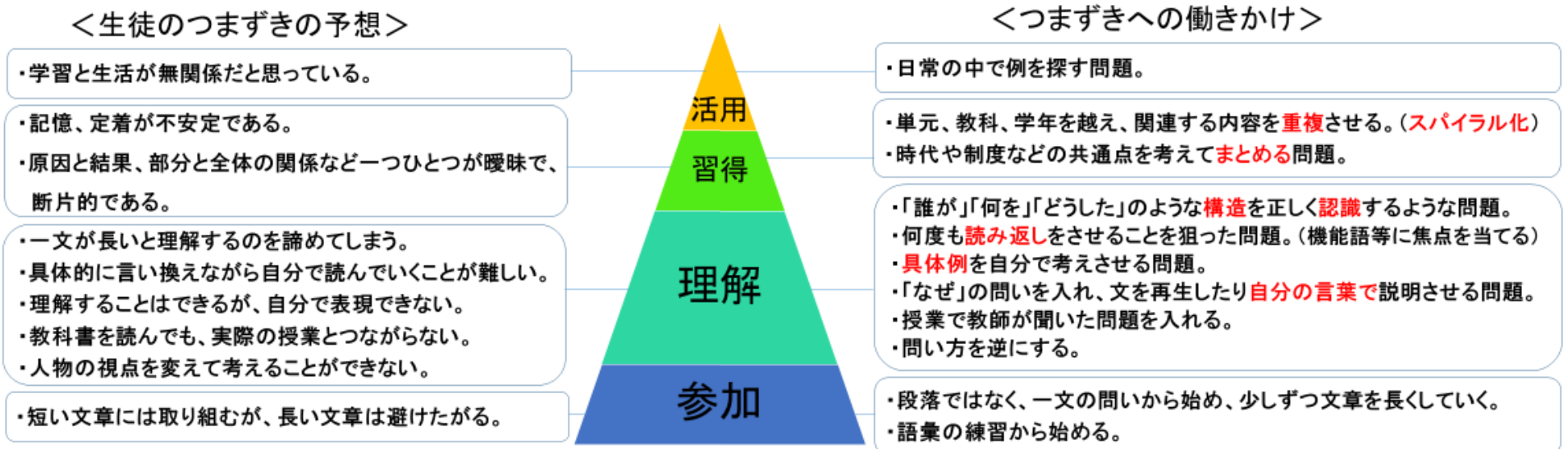
- ・授業中は理解していても、次の授業では部分的な記憶しかなく、定着が難しい。
- ・語彙漢字プリント（以前の支援）で練習していても、その語彙が何の内容・情報と一緒に出てきたものなのか思い出せず、語彙同士のつながりが無い。
- ・聞いて理解することはできるが、自分で読んで理解しようとしたり、ワークに取り組んだりしない。  
＝「教師とやればできる」が、「一人でできる」ステージにはいけない。
- ・教科書を読む機会が少ない。文章を読むのを嫌がる。



### 2. 統合型の学習



### 3. ユニバーサルデザイン



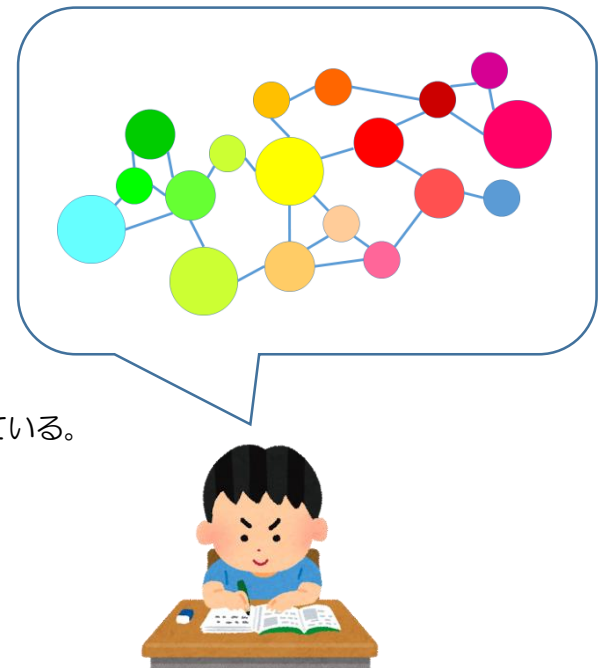
### 4. 生徒、教科の教師の様子・現状

#### 【生徒】

- ・国語の授業で出てきた語彙から想起し、何か月も前の教科の内容がエピソードと共に再生できた。
- ・今までばらばらだった内容が、教科をまたいで繋がりがあると感じ始めている。
- ・内容や語彙が想起しやすくなり、「なんて言うんやったっけ」と必死に思いだそうとしている。

#### 【教師】

- ・高校で文章問題に苦戦する生徒が多いことに危機感を持った教師が、中学校でも理解した後に文章を読む練習をしなければならないという意識に変わり、プリント作成に協力的になり、必要性を感じている。
- ・授業の中で、教科書のどこに書いてあるか探すような投げかけをするようになった。
- ・少しではあるが、授業の中で音読の時間を設けるようになった。



### 5. 今後に期待すること

- ・この教材プリントで読む習慣、勉強する習慣をつけ、支援がなくなる3年生以降で自分で教科書を読み、取り組むという力をつけてほしい。
- ・教科の教師の発問に、「なぜ」、「誰が」などの決まった形式ではなく、様々な視点を持った問いかけが増えることを期待している。